八千代の森

「建築の森」と「自然の森」が調和する地域に開かれた新社屋





■建築概要

所在地	**茨城県日立市**	**施設用途**	**事務所**
構造・階数	**木造２階建て**	**延床面積**	**291.81㎡**
事業費	**114,906 千円**	**木工事費**	**20,424 千円**
工期	**令和7年3月～令和8年2月**	**設計者**	**石井航建築設計事務所**
施工者	**株式会社ミトモク**	**木材供給者**	**株式会社野上製材所・株式会社林産・株式会社佐川産業**

■施設の概要・特徴

創業以来使い続けてきた社屋の建て替え。地域の若者や女性たちがより主体的に働き活躍できる場づくりを目指し、従来の卸売業としての執務機能に加え、多様な価値観を持つ人々や異業種の企業との共創を促す拠点として、日立から新鮮でユニークな活動を発信していく多目的室やラボを併設しました。

県産ヒノキ材だけで構成した社屋「建築の森」と多様な樹種を植樹した「自然の森」を重ね合わせ、訪れた人に木質空間の心地よさを体験していただき、木造化・木質化の広がりを促す施設となることを目指しています。

■使用した木材や工夫した点

主要な構造材はすべて県産ヒノキ材を用いて構成しています。

柱や小屋組を現しとすることで、訪れた人が木造建築の構造や素材を身近に感じられる空間としました。

また、街並みのスケールに呼応するよう空間を細やかに分節することで、構造的な合理性を高めています。一般的な住宅建築で流通している規格材を中心に構成することで、シンプルな架構を実現すると同時に、工事費の抑制にもつなげています。

さらに、構造材にとどまらず、軒天や外壁にも県産のヒノキ・スギ材を積極的に採用しました。地域材の活用により輸送エネルギーを抑え、木材を長期的に炭素貯蔵する仕組みの一端を担うことを目指しています。

樹種	使用量（うち県産材）	使用部	備考
スギ	11.41㎥（11.41㎥）	筋交い・間柱・まぐさ・窓台	
ヒノキ	33.46㎥（33.46㎥）	柱・梁・土台など	
その他	12.47㎥（0㎥）	合板・野縁	合板（ラーチ） 野縁（アカマツ）
計	57.34㎥（44.87㎥）		**国産材の炭素貯蔵量（木材全体）** 30 t-CO2 (42 t-CO2)